

豊里



力強く全力でのプレーを誓う

「市スポーツ少年団豊里支部団結式」は5月14日、豊里公民館で開かれ、7団体、総勢140人の団員がユニフォーム姿で参加しました。各団体を代表して、豊里中学校バレーボールスポーツ少年団の寺澤縁芳さんが、力強く宣誓。各団体から活動内容や目標が紹介され、保護者などに対する感謝の言葉が述べられました。会場には、指導者や多くの保護者が来場し、子どもたちの堂々とした姿に拍手を送っていました。

泥まみれで楽しく田植え体験

「米づくりをしよう～田植え～」は5月15日、米山町内の水田で実施され、米岡小学校（滝野澤清史校長、児童127人）の5年生22人が田植えを体験しました。30年以上続くこの活動は、伝統的な体験学習の一つ。先生や保護者が見守る中、子どもたちははだして田んぼに入り、泥だらけになりながらも手作業での田植えを楽しみました。秋には稲刈りも予定しており、自分たちが植えた稲の収穫を今から心待ちにしています。



米山

9 TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします

迫



フィリピンの子どもに笑顔を

「フィリピンのこどもたちに靴を送ろう」プロジェクト（千葉得郎会長）の出発式は4月26日、北方小学校の敷内で開かれました。今年で2回目を迎えたこのプロジェクトは、北方地区や北方小学校PTAなどの協力により集めた靴を、フィリピンで生活に困窮する子どもたちに送る取り組み。千葉会長は「子どもたちの笑顔のために、少しでも役立ててもらえれば」と願いを込め、箱に詰めた靴を見送りました。

石越



交通事故事故ゼロ1000日達成

「交通事故事故ゼロ1000日達成表彰式」は5月23日、石越公民館で開かれ、登米市交通安全対策協議会と佐沼警察署から石越コミュニティ運営協議会（佐々木敬次会長）へ表彰状が贈られました。同地区は2015年8月から交通事故事故ゼロを続けており、2018年5月20日に1000日を達成。佐々木会長は「地域の皆さんや関係団体の協力により、記録を達成できた。これからも記録を伸ばしたい」と抱負を述べました。

未来のために今できることを

「第19回水道週間記念植樹」は5月25日、登米町上羽沢地内の市有林で実施され、登米中学校（小野寺彰哉校長、生徒108人）の1年生38人がオオヤマザクラなどの苗木100本を植樹しました。この植樹は、北上川の環境保全と水道の大切さを次世代に引き継いでいくことを目的に、2000年から実施。参加した生徒たちは、自然の大切さを学び「苗が育つのが楽しみ」と苗木の成長を願いました。



登米

ちびっこ消防隊員頑張ります

「幼年消防クラブ任命式」は5月24日、東郷幼稚園（千葉敦子園長、園児25人）で開かれ、12人の新入園児が新たに幼年消防クラブの一員に任命されました。同日は、消防署員の説明を聞きながら、消防車などの見学や女性消防団員による防災教室を体験。ちびっこ消防隊員になった子どもたちは「僕たち、私たちは、マッチやライターで火遊びしません」と元気に声を合わせ、防災の誓いを宣言しました。



南方

東和



1本1本の矢に思いを込めて

「第19回夏季みやぎ弓の里A1カップアーチェリー大会」は5月5日、東和総合運動公園で開かれ、過去最高の178人の選手が参加し、熱戦を繰り広げました。同会場では、運動公園内に競技会場を2カ所設置。2001年の「みやぎ国体」以来の大規模な大会となりました。また、選手や関係者には、地元有志から無料ではっと汁が振る舞われ、「おいしい」「また来たい」などの声上がり、試合以外の「おもてなし」も喜ばれていました。

津山



生き生き元気な体で介護予防

「つやま和話輪研修会」は5月17日、津山ふれあいセンターで開かれ、約40人の参加者が受講しました。同研修会は、介護予防の輪を広げるために、年6回コースで開催。1回目となった今回の活動は「自分の体力を知ろう」をテーマに、講師の東北文化学園大学佐藤敬広准教授がロコモ予防の講話や体力測定、いきいき体操などを指導しました。講師のユーモアあふれる指導に、参加者らは終始笑いが絶えず研修を楽しみました。

緑豊かな草花に季節を感じて

「平成30年春の山野草展」(上沼園芸愛好会・上沼コミュニティ運営協議会主催、只野正喜会長)は5月12、13の両日、上沼ふれあいセンターで開かれ、181人の来場者が春の草花を楽しみました。上沼園芸愛好会は、活動を始めてから今年で15年目。今回は約160点の作品が会場に並びました。只野会長は「仲間と一つの目的が持てるこの活動が私の生きがい。今後も共に活動を続けていきたい」と話していました。



中田